



**2024年1月28日
1月第四主日礼拝式**

「主に向かって喜び歌おう」

(詩篇95:1-3)

主に向かって喜び歌おう

われらの救いの岩に

感謝の歌で み前にすすみ

さんびをもって 主に喜ぼう

主は大いなる神 すべてにまさって

主は大いなる神 大いなる王

2 み前につどい

1. み前に集い 主のみ名をあがめよう
み前に集い 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとしえに
2. 心をあわせ 主のみ名をあがめよう
心をあわせ 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとしえに
3. きよき手をあげ 主のみ名をあがめよう
きよき手をあげ 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとしえに

新聖歌230番 「十字架のもとぞ」

- 1 十字架のもとぞ いと安けき
神の義と愛の 会えるところ 嵐吹くときの
巖(いわお)のかげ 荒野の中なる わが隠れ家
- 2 十字架の上に われは仰(あお)ぐ
わがため悩める 神の御子を たえにも尊(とうと)き
神の愛よ 底(そこ)いも知られぬ 人の罪よ
- 3 十字架のかげに われは立ちて
御顔(みかお)の光を 絶えず求めん
この世(よ)のものみな 消(き)ゆる時も
奇(くす)しく輝く その光を アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、

三日目に死人のうちよりよみがえり、

天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。

かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。

われは聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、

罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、

永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌221番 「ああ主の瞳(ひとみ)」

- 1 ああ主の瞳 まなざしよ きよき御前を 去り行きし
富める若人(わこうど) 見つめつつ
嘆(なげ)くは誰(たれ)ぞ 主ならずや
- 2 ああ主の瞳 まなざしよ
三度(みたび)わが主を 否(いな)みたる
弱きペテロをかえりみて 赦す誰ぞ 主ならずや
- 3 ああ主の瞳 まなざしよ
うたがいまどう トマスにも
御傷(みきず)しめして 「信ぜよ」と
宣(の)らす誰(たれ)ぞ 主ならずや

新聖歌221番 「ああ主の瞳(ひとみ)」

4 昨日も今日も 変わりなく
血潮(ちしお)したたる 御手を伸べ
「友よ 帰れ」と 招きつつ
待てるは誰ぞ 主ならずや

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌63番 父 御子 御霊の

ちち みこ みたまの

おお みかみに

ときわに たえせず

みさかえあれ

みさかえあれ

アーメン